

日本インドネシア協会特別セミナー（京都大学共催）

主催：一般財団法人 日本インドネシア協会

共催：京都大学 ASEAN 拠点、京都大学東南アジア地域研究研究所

日時：2022年3月30日（水）14:30-16:30

方式：オンライン（Zoom）

プログラム：

1) 14:30-14:35 開会挨拶 京都大学 ASEAN 拠点 縄田栄治 拠点所長

2) 14:35-16:05 講演

①14:35-15:05

○講師：河野文子 医学研究科 社会健康医学系専攻国際化推進室 特定助教

○講演内容：東南アジア出身の日本在住イスラム教徒の日本での医療機関受診時の課題について

○概要：

イスラム教徒の患者が日本の医療機関を受診する際、女性患者の女性医療者による診察や、薬や入院中の食事がハラールであるかどうか等、宗教的な事柄で課題となる点があるが、日本の医療者の多くは、なぜイスラム教徒がそのようなことを気にするのか、どのような対応を取るべきかについての知識がほとんどない。医療の標準化が進む中、イスラム教徒のみを特別扱いする事は難しい部分もあるが、医療におけるカルチュラル・コンピテンシーの課題として、外国人患者の個々のニーズに向き合い、可能な範囲での対応を促す為には、どのような観点についての啓発・教育が必要なのかについて解説する。

②15:05-15:35

○講師：佐山敬洋 防災研究所 社会防災研究部門 准教授

○講演内容：スマトラ島の熱帯流域における気候変動・土地利用変化の影響について

○概要：

世界の熱帯泥炭地のうち、約60%は東南アジアに位置しており、その面積は約23万km²と本州に匹敵する面積を有している。気候変動や土地利用変化に伴い、流域の水循環が変化し、熱帯泥炭地における洪水や

火災などの災害リスク増大が懸念される。泥炭地でひとたび火災が発生すると、煙害や温室効果ガスの排出にも結び付くことになる。インドネシアにおける熱帯泥炭地の持続可能な社会を考究することを目的として、衛星情報や水文モデルなどの技術や現地計測に基づいて、洪水・火災リスクの推定に関する研究を進めており、本発表では、スマトラ島のバタンハリ川流域を主な対象流域として進めた現地調査や水文モデリングに関する研究の成果を紹介する。

③15:35-16:05

○講師：石原慶一 エネルギー科学研究科 エネルギー社会・環境科学専攻社会エネルギー科学講座 教授

○講演内容：農林水産業における再生可能エネルギーによる地域活性化の課題

○概要：

近年、世界的にエネルギー転換が進んでおり、農林水産分野においても再生可能エネルギー導入が進んでいる。一方、農林水産業を主に生業としている地域において、高齢化、過疎化が進んでおり、如何に地域を活性化し産業を継続していくかが世界共通の課題となっている。このような背景から、先進国においては、再生可能エネルギー開発により地域活性化を試みる取り組みが、助成プログラムなどもあり多くの成功事例が蓄積されている。東南アジアにおいても今後導入が期待される。本講演では日本および東南アジアの事例を紹介し、東南アジア諸国における技術的課題と社会経済的課題を明らかにし、課題克服のための方策について考察する。

3) 16:05-16:25 質疑応答 (3名の講師に対してまとめて)

4) 16:25-16:30 閉会挨拶

費用：会員無料 (非会員 3,000 円)

申込：

① 会員の皆様は、「会員マイページ」からお申込みください。

<https://japinda.shikuminet.jp/login/>

② 下記フォームからもお申込みいただけます。

<https://forms.gle/6P8BNJTUbcM8dk116>

お問い合わせ先：日本インドネシア協会 事務局 info@japinda.or.jp